



国指定重要無形民俗文化財  
ユネスコ無形文化遺産登録候補

# 八代妙見祭

お下り【御夜】

**11月22日(火)**

14:00 八代神社発

17:30 御夜 (本町アーケード周辺)

お上り【神幸行列】

**11月23日(祝)**

7:30 塩屋八幡宮出発

8:30 やつしろハーモニーホール

9:00～11:30 八代駅前 (演舞)

12:30～16:30 砥崎河原 (演舞)

## 八代妙見祭とは…

寛永9年(1632)に八代城主となった細川忠興は、入城以来、在城14年間に妙見祭の振興に心を傾けました。寛永13年(1636)に寄進した神輿の天井には、自ら龍の絵を描いたと記録されています。

忠興の没後は、八代城に入城した松井氏がその遺志を引き継ぐことになりました。そして、元禄期以降、行列に獅子、奴、笠鉾、亀蛇などがお供するようになりました。

こうして、町衆や百姓衆も参加して天下泰平を築く祭礼へと発展してきたといわれています。

## Interview

### 歴史絵巻のストーリーを感じてほしい

八代妙見祭は、九州三大祭の一つに数えられており、市内外からたくさんの人出で賑わいを見せます。これまでも祭りの本質と伝統を守りながら、毎年、現代に合った様々な仕掛けを考え、開催してきました。

この祭りの一番の見所である「八代妙見祭の神幸行事」は、平成23年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。今後、ユネスコ無形文化遺産登録も控えています。八代のお祭りから九州のお祭りへ、そして世界のお祭りへ、世界中の人が八代の地へ足を運びたいような、古き良き時代を現代に再現できるよう取り組みたいと考えているところです。

今年の八代妙見祭の仕掛けは、衣装を新調し約200年前の絵巻を完全再現したお上り行列です。八代妙見祭独自の武家文化と町衆文化の融合は、見るものを圧倒します。八代駅前と砥崎河原には棧敷席も設けていますので、ゆっくり観覧することができます。昔の八代妙見祭の神幸行列を想像しながら歴史絵巻のストーリーを感じてください。

八代妙見祭は、町内のお祭りではなく、市全体のお祭りとして位置づけています。お上り行列にはだれでも参加できます。ぜひ、一緒に祭りを楽しみましょう。



八代妙見祭保存振興会 会長  
濱 大八郎さん

御夜 ごや 11月22日(火) 午後5時30分～8時30分

本町アーケード街に出し物が勢ぞろい。9つの笠鉾や亀蛇、獅子などが立ち並び、本町アーケード一帯でさまざまなイベントが行われます。

■食の祭典「妙見楼」

午後5時30分～8時30分  
(がらっぱ広場)

■御夜茶会

午後5時30分  
限定200席程度 無料

■雅太鼓

午後5時30分  
(メイン広場マルクラ前)

NEW!

■笠鉾「朱印めぐり」

午後5時30分～8時30分  
各笠鉾の陣を巡って、さまざまなデザインのご朱印を集めませんか。「笠鉾ご朱印帳」は、各笠鉾展示場所などで販売。(1冊500円)

※ご朱印とは・・・寺院や神社に参詣・参拝した際、証として授け与えられる印影

■ホイホイ出発式

午後6時(市社会福祉協議会前)



■伝統芸能フェスティバル

八代新地大鞘節(千丁町)、砥原子ども会おざや名所(鏡町)、芝口大鞘節(鏡町)、銭太鼓(千丁町)

■八代妙見紅道中

午後6時  
(肥後銀行八代支店跡出発)

■子供能

午後7時  
(イベント広場)  
ほかにも多彩な催しものがあります。

■妙見祭笠鉾組立見学ツアー

11月20日(日) 午前9時～正午  
集合場所 市役所南側駐車場  
(市役所バス停裏)  
申込み・問合せ  
文化振興課 ☎ 3345333

お上り行列 11月23日(祝) 午前7時30分

妙見祭の出し物の行列(お上り)は、塩屋八幡宮から妙見宮まで、約6kmを歩きます。行列に参加する人は、およそ1700人もいて、行列の長さは約1.5kmになります。

■妙見座(八代の食と物産フェア)

11月23日(祝) 午前10時～午後4時  
(宮地小学校グラウンド)



獅子

獅子は、角2本、胸が赤と白の雄獅子と角1本、胸が赤と黄色の雌獅子で1対です。玉振り役の童子と一緒にチャルメラや太鼓、ドラに合わせて表情豊かに演じます。



笠鉾

笠鉾は、八代城下の町々から奉納されているもので、全部で9基あります。それぞれデザインが異なり、商売繁盛や子孫繁栄などのおめでたい飾りが付けられています。



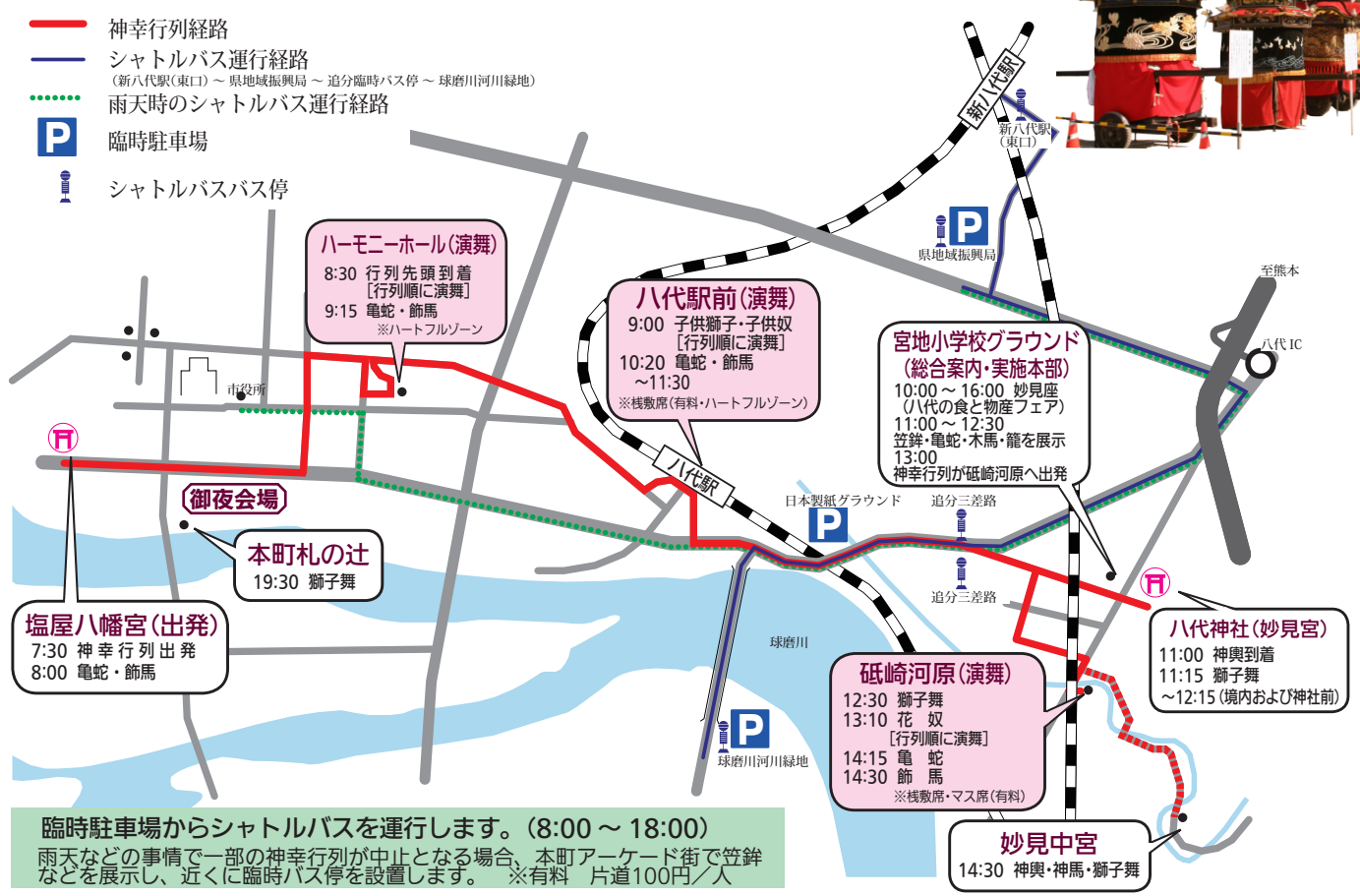
亀蛇

亀蛇は、亀と蛇が合体した想像上の動物です。その昔、妙見神が亀蛇に乗って海を渡って来たという伝説にちなんだものと考えられています。大きさは全長3m、幅は2.5m、重さは100kg以上もあります。

神幸行列の順番

- 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
- 節馬(花馬) 亀蛇(カメ) 流鏝馬 笠鉾(松) 笠鉾(恵) 笠鉾(蜜) 笠鉾(狸) 笠鉾(西) 笠鉾(蘇) 笠鉾(本) 斎主 立傘 菅翳 紫翳 長刀 神輿 御太刀 対の槍 弓矢 紙幣 四神旗 奏楽 奏楽 火王(永王) 阿須波神 神官 大太鼓 大太鼓 甲冑武者 神馬奉行 神馬 笠鉾(菊) 籠 白和幣 毛槍 鉄砲 木馬 花奴子 獅子

# お上り見どころマップ



## 23日の交通規制

※変更になる場合があります。

### 塩屋八幡宮付近

午前6時30分  
 建馬町交差点～本町アーケード街方面は車両進入禁止

### 本町一丁目付近

午前7時30分  
 本町アーケード街方面へは車両進入禁止

### 大手町～八代駅前付近

午前8時30分～正午頃  
 大手町交差点～八代駅前演舞会場方面へは車両進入禁止

### 宮地付近

午前9時～午後9時  
 八代神社(妙見宮)周辺は車両進入禁止  
 国道3号追分バス停～八代神社(妙見宮)の県道は午前9時～午後9時車両進入禁止(一部は午後6時)



## わたしの見どころポイント



八代妙見祭保存振興会総務局地域連携部会 副部会長 水田千春さん

妙見座でがめさん折り紙「オリガメ」を作り、くまもとと一緒にがめさんダンスを踊ります。是非、親子で参加してください。



八代経済開発同友会 代表幹事 杉本隆之さん

静と動が織りなす八代妙見祭の静の部分が笠鉦。水引きなど間近で見て、その素晴らしさを感じてほしいです。



八代妙見祭 笠鉦連合会 会長 長江弘至さん

神幸行列では鳴り物がなく、「ホイホイ」のかけ声で進む静かさが魅力。その中で各笠鉦の特徴を見て楽しんでください。



八代妙見祭保存振興会総務局渉外部 会長 飯田哲さん

オススメは本町札の辻で行われる獅子舞。夜に提灯を灯して獅子舞が舞う昔ながらの雰囲気味わうことができます。



# いよいよ ユネスコ無形文化遺産登録へ

八代妙見祭の神幸行事は、平成27年3月に全国32の祭りとともに「山・鉾・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産への登録を提案されました。11月28日からアフリカのエチオピアで開催されるユネスコ政府間委員会で審査後、登録される予定です。

ユネスコ無形文化遺産登録へ向けて市全体の機運を高めるため、さまざまな催しが行われます。

問合せ 文化振興課 ☎ 33-4533

## ■約1カ月間、いつでも笠鉾に会える「笠鉾 特別展示」

とき 11月13日(日)～12月10日(土)

午前10時～午後6時

ところ がらっぱ広場

(本町一丁目アーケード内)

9基の笠鉾が3回に分けて展示されます。期間中、やつしろ観光ガイド協会が八代妙見祭と笠鉾について随時説明します。

11月13日(日)・20日(日)は組立、12月11日(日)は解体の見学ができます。

※組立場所・時間はお問い合わせください。

※申込不要、観覧無料



## ■「全国山・鉾・屋台保存連合会総会 八代大会」

とき 11月22日(火)・23日(水)

国の重要有形・無形民俗文化財の指定を受けた山・鉾・屋台とその行事に関する保護団体を中心に組織されている「全国山・鉾・屋台保存連合会」の総会が本市で開催されます。妙見祭とともにユネスコ無形文化遺産に登録が予定されている全国の祭り関係者など約400人が八代を訪れ、研修や祭り視察を行います。

## ■八代妙見祭ユネスコ無形文化遺産登録『MEMORIAL FESTA』開催

〜八代の宝から、世界の宝へ！そして新たなステージへ！！〜

とき 12月3日(土) 午後4時～

ところ 八代神社

宮地小学校周辺

対象 どなたでも

※参加無料

問合せ 八代経済開発同友会

☎ 325620

## ■「八代妙見祭ユネスコ登録 吉村作治特別講演会」

「日本の祭りとその起源」〜日本の祭りの起源はエジプトにあった！〜

とき 12月17日(土) 午後2時～

ところ 厚生会館

講師 吉村作治氏

(東日本国際大学学長)

早稲田大学名誉教授



※入場無料

※ただし、入場整理券が必要です。

11月15日(火)から厚生会館、千丁文化センター、鏡文化センターで配布します。(1人4枚まで)

11月15日(火)から厚生会館、千丁文化センター、鏡文化センターで配布します。(1人4枚まで)

## Interview

### 八代妙見祭を後世に残していきたい



八代神社(妙見宮) 宮司  
(八代妙見祭保存振興会 名誉会長)  
小林 緑郎さん

八代妙見祭は、神社の歴史とともに脈々と受け継がれてきました。今回のユネスコ無形文化遺産登録については「このお祭りを継承し、後世に残していきたい」という、思いで行ってきたさまざまな活動が認められたのではないかと思います。これからも多くの人とともに祭りに携わっていく中で、神幸行列に参加される人はもちろん、市内外から見に来られる人にも楽しんでいただき、常に先を見据え、祭りの本質を見失うことなく、後世に繋げていくことが出来れば嬉しく思います。

## Interview

### 八代の宝から世界の宝へ

八代妙見祭は平成23年に国の重要無形民俗文化財の指定を受けて、「全国山・鉾・屋台保存連合会」に加入しました。その中で妙見祭の歴史を継承しながら、御夜やちびっこ妙見祭など賑わいづくりをするための仕掛けを作ってきたことが、今回のユネスコ無形文化遺産登録へと繋がっていると思います。もちろん、市民のご理解とご協力のおかげでもあります。今後、もっと広く発展させていくためにもユネスコ無形文化遺産登録の吉報が待ち遠しいです。



八代妙見祭保存振興会  
総務局長 宮崎浩二さん